

令和6年度 新庄村立新庄小学校 学校評価(自己・学校関係者)評価書

評価 A：期待以上 【目標を達成している】
B：ほぼ期待通り 【おおむね目標を達成している】
C：やや期待を下回る 【あまり目標を達成できていない】
D：改善を要する 【目標を達成できていない】

自己評価			学校関係者評価		
項目	評価	分析・改善の方策等	項目	評価	自己評価に対する意見等
教育全般	A	「学校は楽しい。」「我が子は、学校へ行くのが楽しいと言っている。」という肯定的回答が昨年度より増えた。児童は楽しく学校に通い、保護者は安心して我が子を学校に預けることができていると受け止め、引き続き安心・安全な学校であるよう努めていく。 児童は、友達と協力することを楽しみ、夢や目標を持って頑張っているので自己肯定感も高い。その一方で、学校のことを話題にする児童・家庭が昨年度より若干減少しているので、家庭で話をしたくなる話題や教育活動を提案、実施していきたい。	教育全般	A	昨年と同様に「学校は楽しい。」に関連して『明日も行きたいという気持ちになる学校』にしてほしい。 保護者アンケートの「家で、子どもと学校や友だちの話をよくしている。」という項目の肯定的回答が昨年度より減っている。「もっと子どもの話を聞こう。」「子どもは一生懸命話して、相手が一生懸命に聞いてくれていると感じることが大切。」ということを確認した。
授業改善	B	児童が主体的に、協働的に学ぶことができるように授業改善を行っている。その結果、昨年度肯定的回答が低かった「授業で、自分の考えや意見を発表している。」「授業で、ペアやグループでの話し合いに進んで取り組んでいる。」が、いずれも90%以上となり、授業改善の成果が表れている。これからも授業の中で意図的に話し合ったり、話し合いたくなるテーマを設定したりして学びを深めていきたい。 保護者は「学校は、分かりやすい授業になるように取り組んでいる。」と100%の肯定的回答であったが、「我が子は、学習内容を理解している。」という項目が92%であった。授業は分かりやすく、しかも学習内容がきちんと身につけていると判断していただけるよう児童一人一人にきめ細やかな指導を心がけたい。	学習指導	A	実際に授業を参観して、子ども達はタブレットを活用する授業に慣れていると感じた。その一方で、掲示物等を見るとしっかり鉛筆や毛筆で書いている作品もあり手書きの良さも感じられた。 児童アンケート結果からも、子ども達はよく学習していると感じた。 児童のアンケート結果を見ると「自分の考えや意見を発表している」が増えている。それは今年度の校内研修の体制として小中合同で3つの班を作り、その1つの班が「協働的な学び」について授業公開を行うことで全体的な授業改善が進んでいる成果であると考えられる。
学習評価	A	昨年度と同様、肯定的回答が100%であり、適切であると理解されている。今後も「指導と評価の一体化」を心がけ、保護者に分かりやすく伝えていく。			
家庭学習の充実	B	児童は「決められた時間」を守り「めあてをもって」家庭学習に取り組んでいる、しかし、家庭学習の内容が音読やドリル学習など一律的な課題が多く、意欲的に取り組んではないことが保護者からの「我が子は、意欲的に家庭学習に取り組んでいる。」という肯定的回答の低さ(59%)に表れている。家庭学習の習慣は身につけているので、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る一方、児童が意欲を持って取り組むことができる課題の内容や提出方法のあり方を改善していきたい。			
体験的学習	A	「ふるさと新庄学」では、4－3－2制で活動している。地域を中心にした体験的な学習を行うことで新庄村の自然や暮らしを知り、本学園が目指す課題発見力、規律性、発信力・傾聴力、実行力という資質・能力をこれからも育んでいきたい。			
特別活動	A	昨年度に引き続き保護者から高評価である。今後も「小中合同のよさ」を児童がより実感できるように、活動の意義を丁寧に説明しながら進めていきたい。	生徒指導	B	以前からの課題である姿勢について、授業参観してみると1・2年生の姿勢が良く、また、他の学年も昨年度と比べて姿勢が良くなっていた。ただし、足で椅子を引く様子が見られたので、引き続き「良い姿勢で学習する」声かけや働きかけをしてほしい。 保健室の中に教育相談コーナーがあるのが良いと感じた。教室では話せないことや、1対1で話したい子どもが日常的に活用できるような配慮が良い。「困ったとき、友だちや先生や家族などに相談できる人がいる。」という項目で1人だけ否定的回答をしている。この1人が肯定的回答になるように大切にしてほしい。
規律・生活習慣	B	以前からの課題である「よい姿勢で学習する」の肯定的回答が増え、改善が見られた。これは合い言葉の提示ではなく、日々の授業の中での声かけや養護教諭、栄養教諭の働きかけが大きい。今後も継続して取り組み、さらに多くの児童が良い生活習慣を身につけることができるようにしたい。			
共感的な集団作り	A	低学年は同学年で過ごし、中・高学年は複式学級で過ごしている。そして、縦割り班は小学生だけのものと中学生も一緒のものというように、児童は様々な集団の中で過ごす経験をしている。様々な立場を経験することで人を思いやる心が育まれ「困ったときには校内に相談できる人がいる」と97%の児童が回答している。今後も継続して取り組みを行いたい。			
教育相談	A	教育相談を定期的に行うとともに、適時児童からの相談に乗るなど日々児童に寄り添ったスタンスを取り続けている。また、日常の学校生活においても児童からのサインを見逃さないようにしているので、保護者からも児童からも「先生達は話（気持ちや考え）を聞いてくれる。」と100%の肯定的回答であった。今後も継続して取り組みを行う。			
いじめ防止	B	P T A総会等でいじめ問題の取り組みについて説明したり、保護者の声を真摯に受け止め対応したりしたので、昨年度より大幅に保護者から取り組みに対する肯定的回答が増えた。しかし、「いじめ問題にすぐに」対応していないと感じている児童が昨年より微増していることを重く受け止め、より一層アンテナを高くして児童からのサインを見落とさないようにする。	保健・安全指導	A	1～4年の体育の授業を参観して、子ども達はとても楽しそうに活動していた。このような日々の授業が「運動やスポーツすることが好きだ。」につながっていると感じた。高学年の授業での動画を撮ったり作戦を考えたりする『考える体育』は、運動が苦手な子にもスポーツをする楽しさが伝わるのではと感じた。
保健・安全指導	A	「運動やスポーツをすることが好きだ。」「体育の授業は楽しい。」という肯定的回答が増えた。これは小中合同で体育的行事を実施したり、授業者が日々の授業の中で児童が楽しむことができるように工夫した結果である。また「少しぐらい苦手なことでも、がんばることができる。」児童が年を追うごとに増え、今年度は肯定的回答が100%となった。今後も継続して、運動をする楽しさを体験できるよう工夫したり、「たくましさ」を育むことを意識しながら指導していきたい。			
家庭・地域連携	A	学級通信や学校便りで児童や学校の様子を伝え、学校行事や学習にボランティアの方が積極的に関わってくださった結果、保護者から「学校は、地域と連携・協力した教育をしている。」と100%の肯定的回答であった。地域との連携は、地域学校協働本部の働きに支えられており大いに感謝している。今後も協力をいただきながら連携を進めていきたい。	家庭・地域連携	A	地域の方の出入りを増やすなど、もっと輪を広げてほしい。 地域が学校を変えようと思っているので、地域の人材を発掘してほしい。